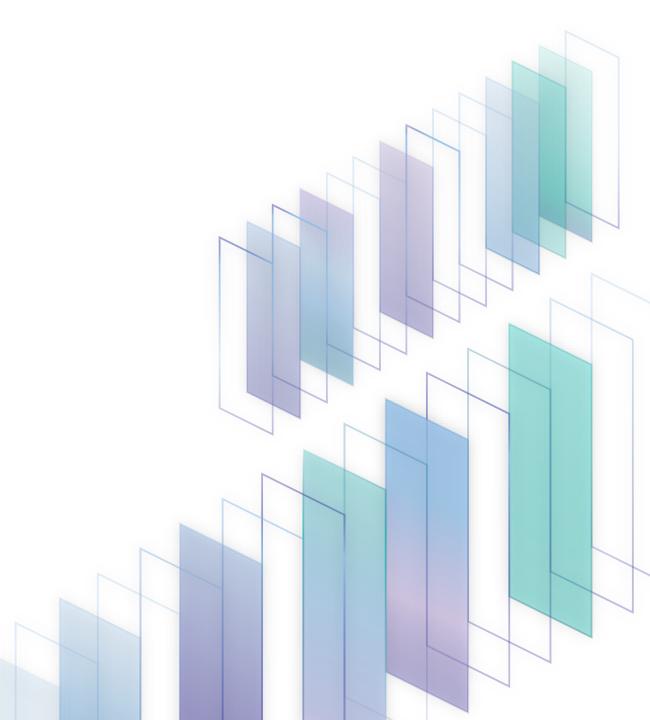
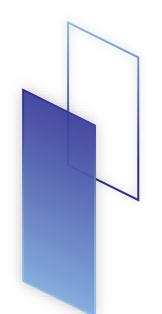


開発者向けオンラインセミナー

## ベクトルであそぼう!

インターシステムズジャパン株式会社 ソリューションアーキテクト 鵜浦 永光 2025年7月29日







**Agenda** 

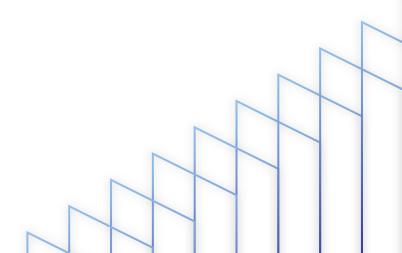
○1 写真から魚の名前をあててみる

02 ベクトルを"見える化"する

03 データの集まりを見る

04 変なデータ(=アノマリ)を見つける

# 写真から魚の名前をあてる



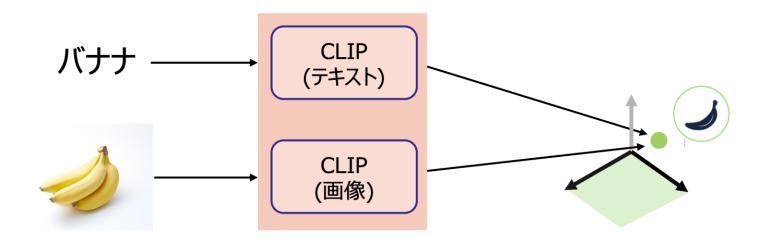
### この魚は何だろう?



#### **CLIP**

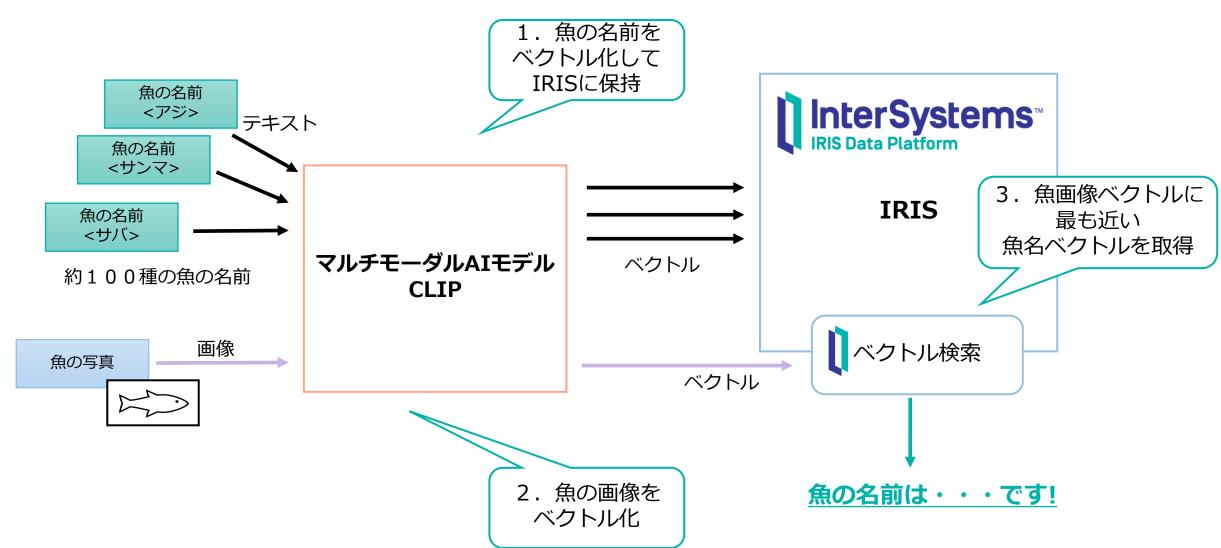


- CLIP Contrastive Language-Image Pre-training
- Open AIが開発したマルチモーダル基盤モデル。
- 画像とその説明文(テキスト)のペアを予測できるように学習したもの。その結果、与えられたテキストに最も合致する画像を見つけたり、逆に、与えられた画像を最もよく説明するテキストを見つけたりすることが可能になった。



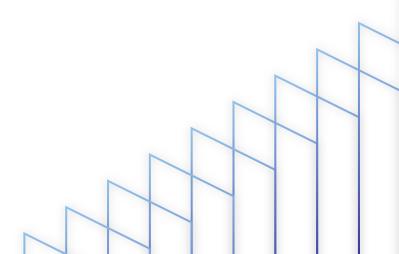
#### 写真から魚の名前をあてる実験構成





## 写真から魚の名前をあてる

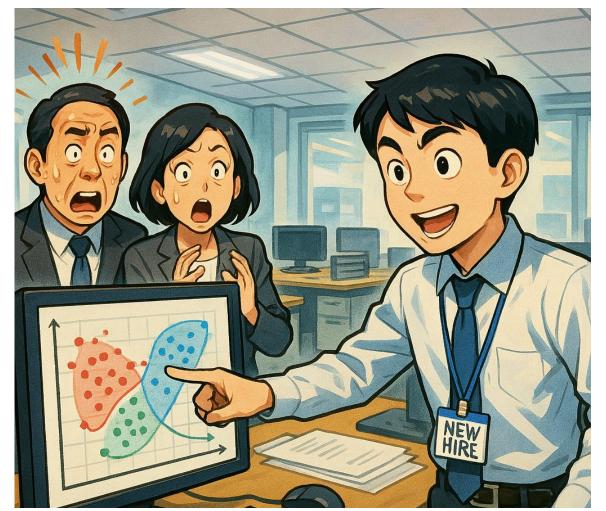
#### **DEMO**



#### ゼロショット分類

特定のラベル(例:魚の名前)に対して事前に学習していなくても、モデルが正しく推論・分類できる能力のこと

※従来の画像分類モデルでは、 「サバ」を当てるには、サバの画像を多数用意し 「これはサバです」と正しくラベル付けして 学習させる必要があった



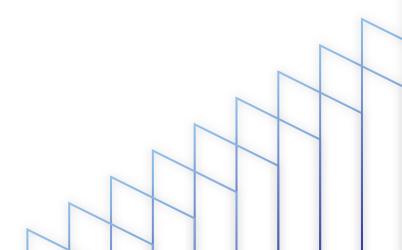
### ファインチューニング

すでに事前学習されたAIモデルに対して 特定の目的やタスクに合わせた 追加学習を行うプロセス

※今回のデモでは行っていません



# ベクトルを"見える化"する



### ベクトル - AIモデルにとっては特徴、人にとっては謎の数字

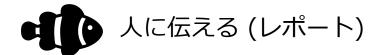


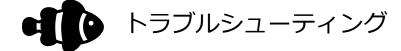
Name	Vectors		
マアジ	.0030519193969666957856,.019338253885507583618, 026509894058108329772,0056376024149358272552,00		
カツオ	.013707441 0443572	013707441277801990509,.020661199465394020081, .0443572(	
サクラマス	0327891! 0484497	数百 ~ 数万次元 の数値	3331, 1461,0410
アユ	.014848685823380947113,.0040654172189533710479, 033739592880010604858,030808333307504653931,015		
ギンダラ	.052557989954948425292,.012833195738494396209, .011079670861363410949,012871518731117248536,00877		

#### ベクトルを"見える化"する利点



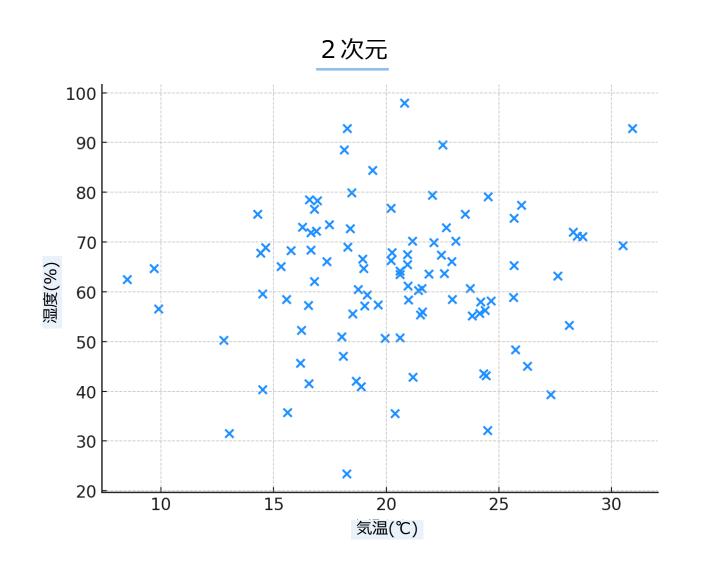


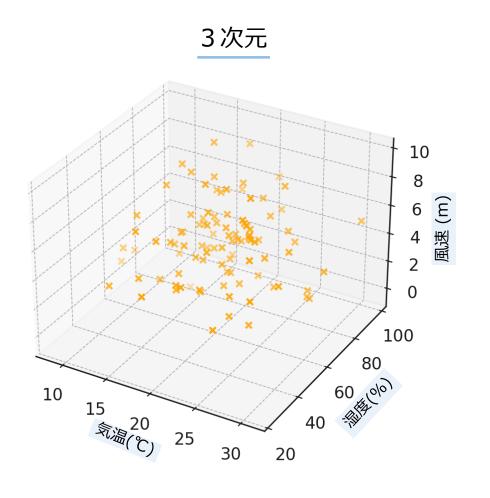




### 人間が目で見て把握できる次元は2次元か3次元



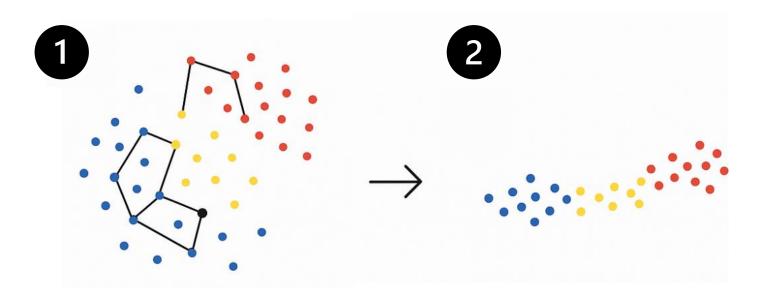




#### 次元を削減



#### UMAP - 次元削減のアルゴリズム

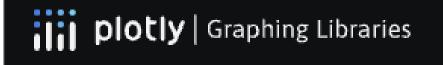


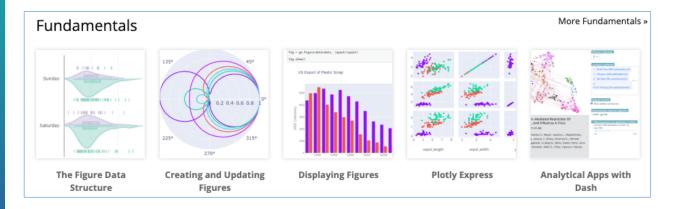
高次元空間での"近さ"を グラフにする

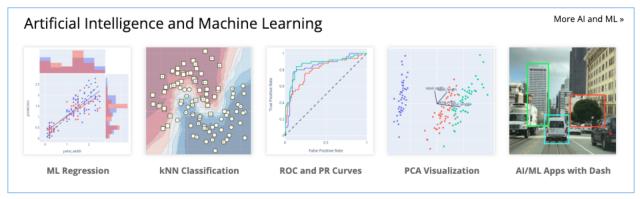
低次元空間(2次元や3次元)で同じ構造になるように最適化する

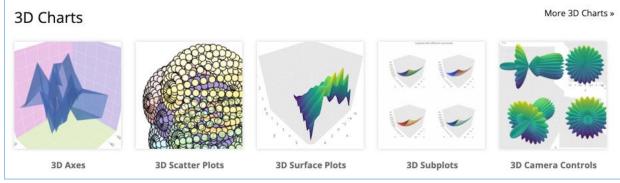
### インタラクティブなグラフ描画 - Plotly

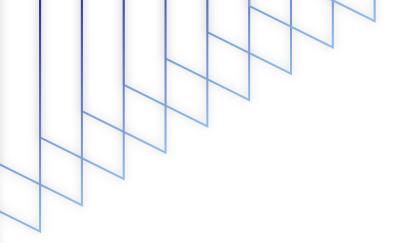
https://plotly.com/python/





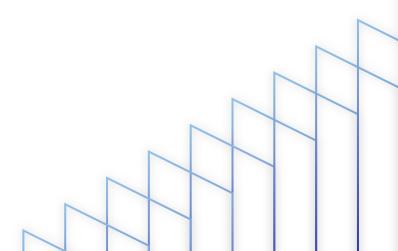


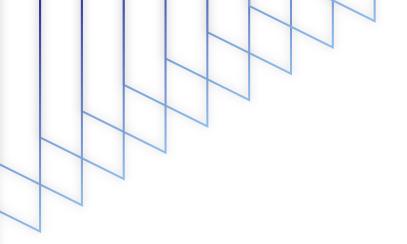




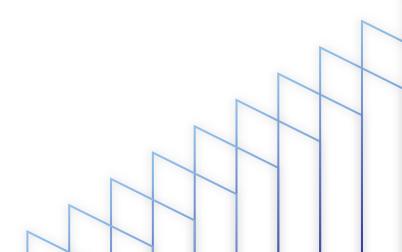
# ベクトルを"見える化"する

**DEMO** 





# データの集まりを見る



#### クラスタリングのユースケース







アンケート結果の傾向分析

#### クラスタリングの代表的なアルゴリズム - "K-Means"



◎ データをK個のクラスタ(似た者同士のグループ)に分類する

教師なし学習「こういうグループ分けをしなさい」といった分類ルールを与えず、モデル自身がデータの特徴に基づいてグループ分けを行う

つう クラスタごとの平均(中心点) がクラスタを代表する値となる

### 最初にKの数(クラスタの数)を決める





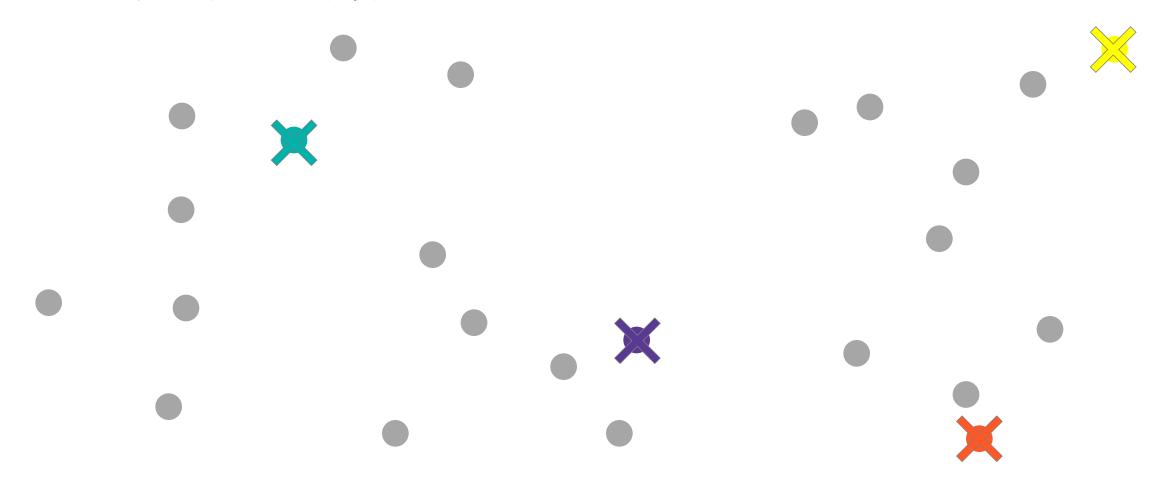
### K個の中心点をランダムに決める





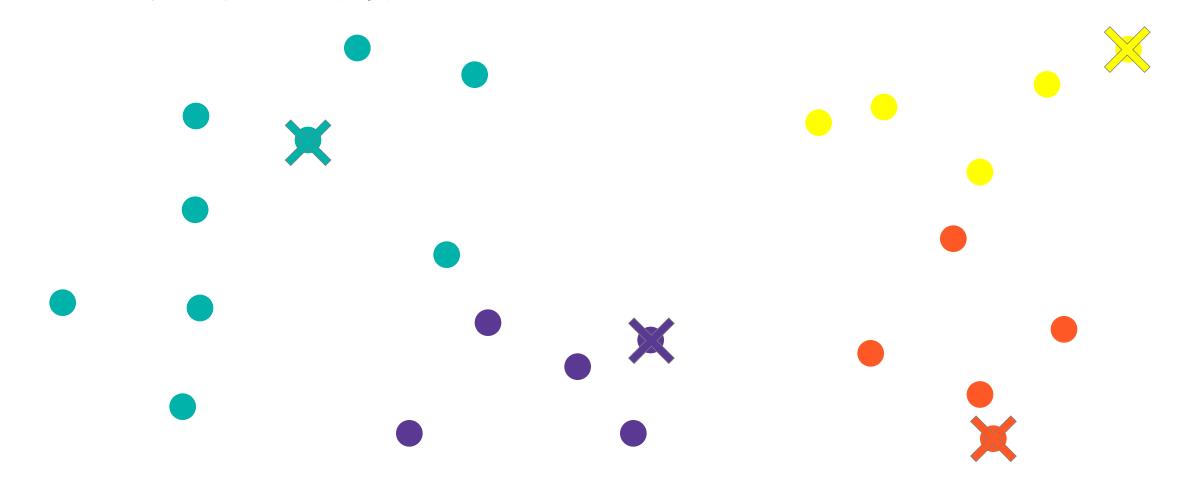
### すべての点を、いちばん近い中心点のクラスタに割り当てる





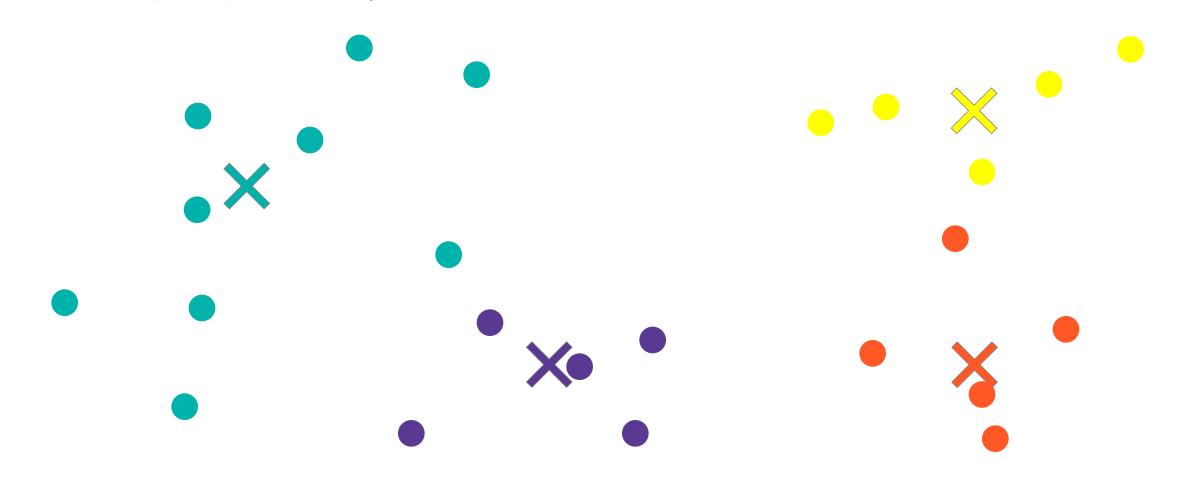
### 各クラスタの真ん中を計算し、中心点を更新する





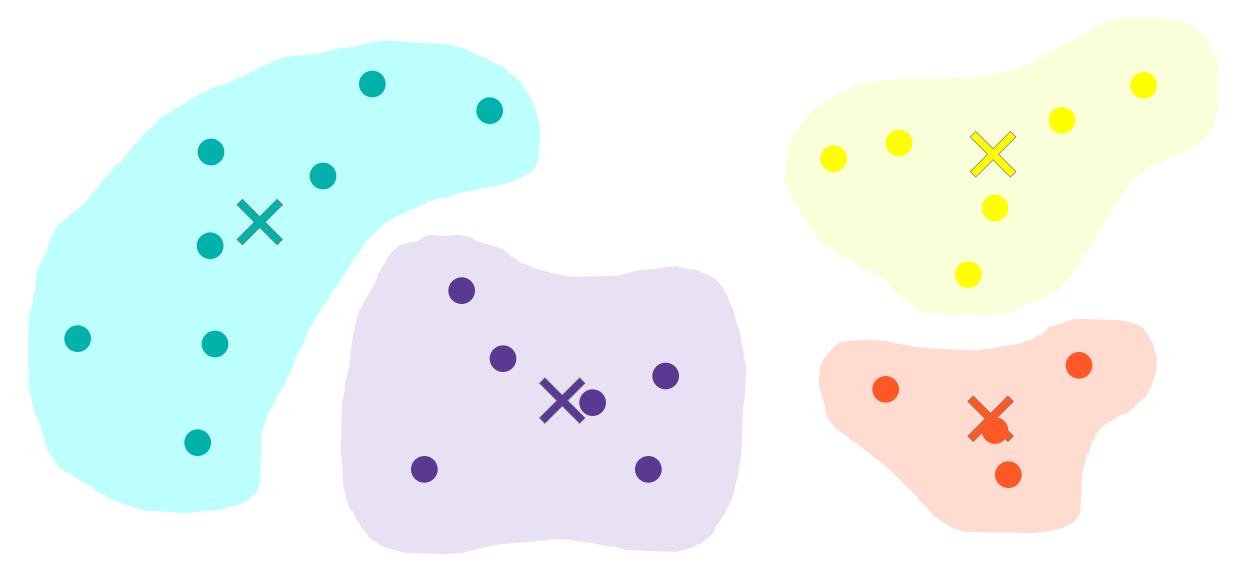
#### 再び全ての点を、いちばん近い中心点のクラスタに割り当てる

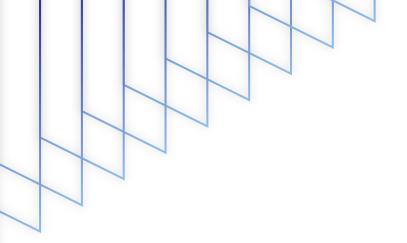




## K(4)個のクラスタが完成

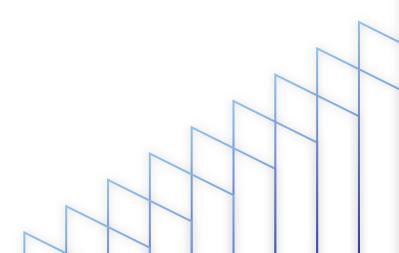




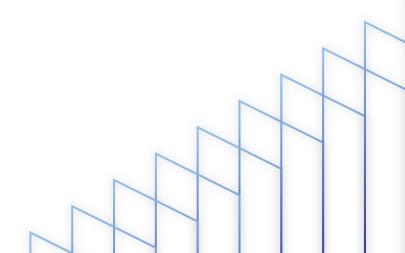


# データの集まりを見る

**DEMO** 



# 変なデータ(=アノマリ) をみつける



### アノマリ検知のユースケース





製造ラインの画像検査



セキュリティ攻撃検知



SNS等での不適切コンテンツ検出

#### アノマリ検知の方法の例

K-Meansを活用したアノマリ検知

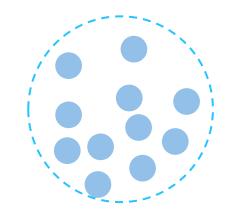


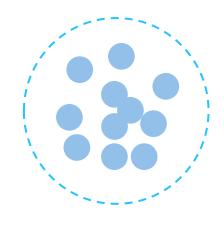
- ・ラベルなしデータを使用
- ・データの分布特性に基づいて異常を検出



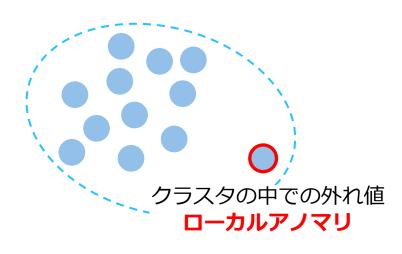
どのクラスタの中心点からも遠い **グローバルアノマリ** 







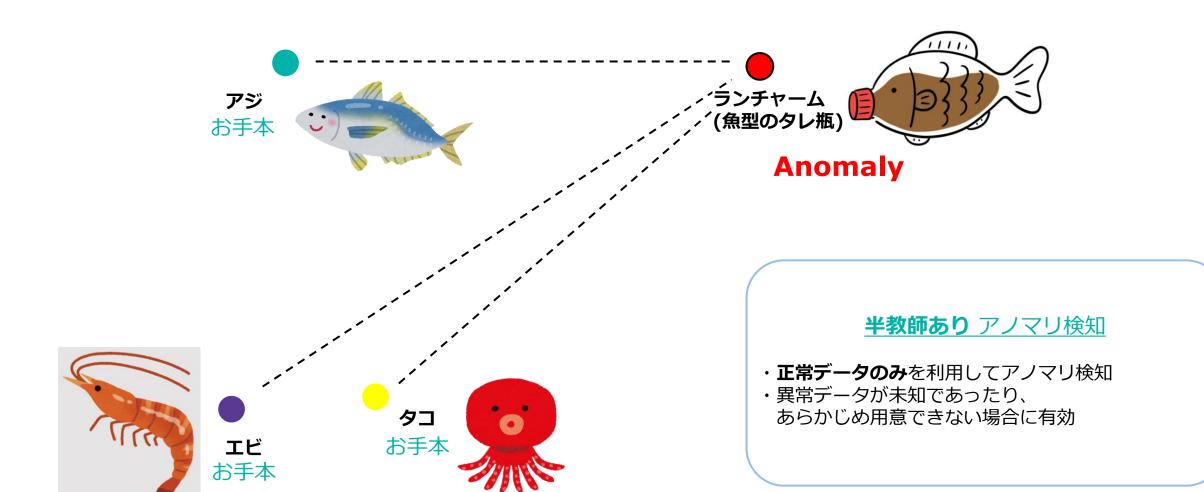




#### アノマリ検知方法の例

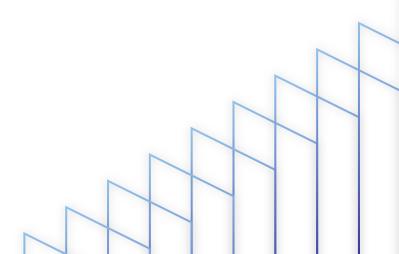


お手本データのいずれにも類似していないものをアノマリとする



# 変なデータ(=アノマリー) をみつける

**DEMO** 



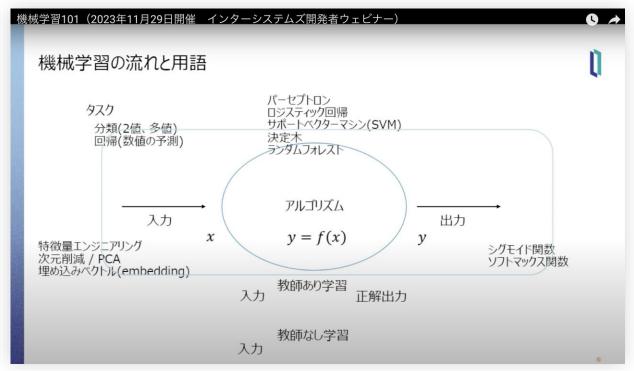
#### 「機械学習101」もおすすめ



インターシステムズ 開発者ウェビナー 『機械学習101』

#### [内容]

機械学習 / 深層学習 / 教師あり学習 / 教師なし学習 / 性能評価の基本(分類・回帰) など



https://www.youtube.com/watch?v=47bP5-AtBVU

インターシステムズ 機械学習101



コンテスト/ミート アップに向けた ウェビナーシリーズ この後も続きます!

